

公立大学法人長野県立大学

第1期中期目標期間終了時に見込まれる業務実績に関する
評価結果報告書

(中期目標の期間：平成30年度～令和5年度)

令和5（2023）年1月

公立大学法人長野県立大学評価委員会

中期目標の期間の終了時に見込まれる業務実績評価について

公立大学法人長野県立大学評価委員会（以下「評価委員会」という。）は、地方独立行政法人法（平成15年法律第118号）第78条の2の規定に基づき、公立大学法人長野県立大学（以下「長野県立大学」という。）の中期目標の期間の終了時に見込まれる業務実績について、中期目標・中期計画に定められた項目の進捗状況または達成状況について評価を行った。

I 評価の基本方針・評価方法

1 評価の基本的な考え方

- (1) 評価は、法人の業務運営等について多面的な観点から総合的にを行い、法人の中期計画の進捗状況を評定するものとする。
- (2) 評価は、教育研究の特性、自主性・自律性に配慮しつつ、法人の継続的な質的向上に資するものとする。
- (3) 評価の一連の過程を通じて、法人の状況を分かりやすく示し、地域社会への説明責任を果たすものとする。
- (4) 中期目標の達成を確保する上で、支障となると考えられる業務運営上の課題を明らかにし、業務の改善・充実に資する。
- (5) 評価は、法人が自主的に行う組織・業務全般の見直しや、次期の中期目標・中期計画の検討に資するものとする。

2 評価方法

評価に当たっては、「公立大学法人長野県立大学の業務実績評価に関する基本方針」（以下「基本方針」という。）及び「公立大学法人長野県立大学の中期目標の期間の終了時に見込まれる中期目標の期間における業務の実績に関する評価に係る実施要領」（以下「実施要領」という。）に基づ

いて実施した。

3 評価の手順（実施要領から抜粋）

評価は以下のとおり実施した。最終的な評定は、評価委員の合議により、意見をまとめ、評価を行った。

(1) 項目別評価

ア 小項目別評価

- ・評価委員会は、公立大学法人長野県立大学から提出された「公立大学法人長野県立大学の中期目標の期間の終了時に見込まれる業務実績報告書」等について、法人関係者からのヒアリング等により検証を行った。
- ・法人の自己点検評価の結果を踏まえて、進捗状況または達成状況を実施要領別表1に定める中期計画の小項目ごとに、実施要領別表2に定める評価基準により、「s、a、b、c、d」の5段階で評価を行った。
- ・なお、法人による自己点検評価の結果と評価委員会による評価の結果が異なる場合には、その理由を示すとともに、必要に応じて、大学の教育・研究等の質的向上、大学経営の改善の促進につながるよう、特筆すべき点や進捗が遅れている点等についてもコメントを付すものとした。

イ 大項目別評価

評価委員会は、小項目別評価結果を踏まえ、実施要領別表1に定める大項目ごとに、実施要領別表2に定める評価基準により、中期計画進捗状況または達成状況について、「S、A、B、C、D」の5段階で評価を行った。

(2) 全体評価

評価委員会は、全体評価に当たって、大項目別評価の結果を踏まえ、実施要領別表2に定める評価基準により、第一期中期目標期間の終了時に見込まれる法人の中期計画全体の達成見込の状況について総合的に評価を行った。その際、長野県立大学の活動全体について記述式で評価を行った。

別表1：見込評価における評価項目

評価区分	評価の対象、内容等
小項目別評価	中期計画の第2から第6の最小項目として記載されている各事項の中期目標の期間の1年目から4年目までの進捗状況または達成状況 ※中期計画の第7から第12に係る実績は、全体評価の参考情報として用いる。
大項目別評価	小項目別評価を踏まえた中期計画における5つの大項目（11区分）ごとの進捗状況または達成状況
	1 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 【教育に関する事項】 (1)人材育成の方向
	2 (2)入学者の受入れ
	3 (3)教育の質の向上
	4 (4)学生への支援
	5 【研究に関する事項】
	6 【地域貢献に関する事項】
	7 【国際交流に関する事項】
	8 業務運営に関する目標を達成するためとるべき措置
	9 財務内容に関する目標を達成するためとるべき措置
	10 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するためとるべき措置
11 その他業務運営に関する目標を達成するためとるべき措置	
全体評価	項目別評価を踏まえた中期計画全体の達成見込みの状況

別表2：見込評価における評価基準

評価区分	評定	評価の基準	評価の目安
小項目別評価	s	中期計画の達成に向けて特筆すべき進行状況にある	特に優れた実績を上げている (評価委員会が特に認める場合)
	a	中期計画の達成に向けて順調に進んでいる	中期計画を達成する見込み (100%以上)
	b	中期計画の達成に向けて概ね順調に進んでいる	概ね中期計画を達成する見込み (80%以上 100%未満)
	c	中期計画の進捗はやや遅れている	中期計画を十分には達成できない見込み (80%未満)
	d	中期計画の達成のためには抜本的な改善が必要である	業務の大幅な改善が必要
大項目別評価	S	中期計画の進捗は優れて順調	特に優れた進行状況にある (評価委員会が特に認める場合)
	A	中期計画の進捗は順調	計画どおり進んでいる (すべて b 以上)
	B	中期計画の進捗は概ね順調	概ね計画通り進んでいる (b から a の割合が 80%以上 100%未満)
	C	中期計画の進捗はやや遅れている	やや遅れている (b から a の割合が 80%未満)
	D	中期計画の進捗は遅れている	業務の大幅な改善が必要 (評価委員会が特に認める場合)
全体評価		中期計画の達成は優れたものとなる見込み	中期計画全体の進捗状況について、大項目別評価から総合的に勘案し、評価
		中期計画の達成は良好となる見込み	
		中期計画の達成は概ね良好となる見込み	
		中期計画の達成はやや不十分となる見込み	
		中期計画の達成は不十分となる見込み	

※「評価の目安」は、評価に当たり判断の目安を示したものであり、実績・成果の水準に加え、計画の難易度、外的要因、取組の経緯・過程等、総合的に勘案して評価する。

II 全体評価

1 評価結果

中期計画の達成は良好となる見込み

○評価結果の概要

長野県立大学は、「長野県の知の礎となり、未来を切り拓くリーダーを輩出し、世界の持続的発展を可能にする成果を発信することで、人類のより良い未来を創造し、発展させる大学を目指す」との理念のもと、「リーダー輩出」「地域イノベーション」「グローバル発信」という3つの使命を掲げ、平成30年度に設立された。

第1期中期目標期間においては、長野県立大学の特色である1年次全寮制、2年次全員参加の海外プログラムといった先進的な教育プログラムやソーシャル・イノベーション創出センターを通じた地域イノベーションへのかかわりなどを積極的に行ってきた。

開学2年目となる令和元年度末からは、国内外における新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受けたものの、学内の感染防止対策を徹底した上で、教育の質の維持・向上や学生へのきめ細かな支援に、教職員が一丸となって取り組んだ。

具体的には、全ての教員が双方向性を確保したオンライン授業を効果的に実施できるよう、スキルアップや教材開発に取り組んだほか、2年次対象の海外プログラムは内容を工夫してオンラインによる代替実施により適切に対応した。

また、理事長裁量経費を活用し、KENDAI MARCHE など学生が地

域の方々と連携した催しの開催や、松川町や王滝村における大学での学びを実践の中で深める学習プログラムへの学生の参加など、地域と結びついた学生の多様な活動に積極的に取り組んでいる。

令和3年度には、初めての卒業生となる第1期生の就職希望者の就職率100%を達成しており、1年次からのきめ細かなキャリア支援の実績として評価できる。

このように、第1期中期目標期間の多くの期間が、コロナ禍で活動が制限される中でも特徴的な大学独自の教育が行われるとともに、ソーシャル・イノベーション創出センターによる地域や高校との連携、大学院の開設、SDGsへの取組などを推進していることから、第1期中期計画の達成は良好となる見込みである。

一方で、英語教育において、学生の英語力の全体的な底上げがなされ、直近の令和3年度は2年次修了時の学生の約6割が600点以上に到達したものの、2年次修了時までには全学生がTOEIC600点以上、平均点700点以上を目指すという中期計画に掲げた目標は未達成であり、英語力向上に向けて抜本的な対策が必要である。

また、研究においては科学研究費の毎年度新規申請率80%以上という目標が4年間達成されていないなどの課題も見受けられる。

今後は、長野県立大学の理念の実現を目指し、4年間の成果と課題を踏まえて、理事長・学長以下教職員が一丸となり中期目標・中期計画の達成に向けて認識を共有して取り組まれることにより、長野県の「知の拠点」として大学の使命を果たされることを期待する。

Ⅲ 項目別評価

(i) 大項目別評価結果 (一覧)

評価委員会における小項目別評価に基づく大項目別評価の状況は以下のとおりである。小項目数 60 項目のうち、評価対象は 55 項目となった。

大項目別評価			小項目別評価					
			s	a	b	c	d	
1	1 教育	(1) 人材育成の方向	B	0	8	0	1	0
2		(2) 入学者の受入れ	A	0	4	0	0	0
3		(3) 教育の質の向上	A	0	5	1	0	0
4		(4) 学生への支援	A	2	7	0	0	0
5	2	研究	B	0	4	0	1	0
6	3	地域貢献	A	1	4	0	0	0
7	4	国際交流	A	0	2	0	0	0
8	5	業務運営	A	0	6	0	0	0
9	6	財務	A	0	2	0	0	0
10	7	自己点検・評価	A	0	2	0	0	0
11	8	その他業務運営	A	0	5	0	0	0
項目数合計			11	3	49	1	2	0
割合 (%)				5.5	89.1	1.8	3.6	0

【大項目別評価の目安】(実施要領：別表2より)

- S:特に優れた進行状況にある(評価委員会が特に認める場合)
- A:計画どおり進んでいる(すべてb以上)
- B:概ね計画どおり進んでいる(bからaの割合が80%以上100%未満)
- C:やや遅れている(bからaの割合が80%未満)
- D:業務の大幅な改善が必要(評価委員会が特に認める場合)

55の小項目中、s(特筆すべき進行状況にある)が3項目、a(順調に進んでいる)が49項目、b(概ね順調に進んでいる)が1項目、c(やや遅れている)が2項目となった。

(ii) 大項目別評価

1	教育に関する事項 (1)人材育成の方向
B	中期計画の進捗は概ね順調

11個の小項目中の評価対象の9項目中、8項目がa(順調に進んでいる)、1項目がc(やや遅れている)と認められ、大項目評価はBとなった。

1の取組項目(小項目の数)		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	0	8	1	0	0	9
	割合(%)	0	88.9	11.1	0	0	100
評価委員会の評価	項目数	0	8	0	1	0	9
	割合(%)	0	88.9	0	11.1	0	100

▽評価をする事項

- ・コロナ禍において、海外プログラムをオンラインで実施するなど柔軟に対応している点を評価する。
- ・学長による面談が新入生の勉学に対する大きなインセンティブとなっていることを評価する。

▼課題となることや今後の展開に期待すること

- ・学生の英語力について、2年次修了時まで全学生がTOEIC600点以上、平均点700点以上を目指すという中期計画の目標は、これまでの達成状況では達成が困難であると考えられることから、抜本

的な対策が必要である。

2	教育に関する事項 (2) 入学者の受入れ
A	中期計画の進捗は順調

7個の小項目中の評価対象の4項目すべてが a (順調に進んでいる) と認められ、大項目評価は A となった。

2の取組項目 (小項目の数)		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	0	4	0	0	0	4
	割合 (%)	0	100	0	0	0	100
評価委員会の評価	項目数	0	4	0	0	0	4
	割合 (%)	0	100	0	0	0	100

▽評価をする事項

- ・学長が県内高校を直接訪問して、志願者増加のための広報活動を行ったことを評価する。

▼課題となることや今後の展開に期待すること

- ・編入学生の1、2年次の必修科目の学修支援については、特に丁寧に対応されたい。
- ・令和4年度から高等教育コンソーシアム信州の単位互換科目を提供しているが、県立大学の得意とする分野など特長を活かしつつ、対象科目を充実されたい。

3	教育に関する事項 (3) 教育の質の向上等
A	中期計画の進捗は順調

6個の小項目中、5項目が a (順調に進んでいる)、1項目が b (概ね順調に進んでいる) と認められ、大項目評価は A となった。

3の取組項目 (小項目の数)		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	0	5	1	0	0	6
	割合 (%)	0	83.3	16.7	0	0	100
評価委員会の評価	項目数	0	5	1	0	0	6
	割合 (%)	0	83.3	16.7	0	0	100

▽評価をする事項

- ・大学院の開設に取り組み、中期計画の達成に向けて順調に進んでいることを評価する。
- ・複数教員が担当する「発信力ゼミ」では、GPAを用いて学習成果を可視化し、それに基づきループリックを構築し、担当教員間での認識共有を行っている点を評価する。
- ・オンライン授業のためのスキルアップ研修など、充実したFD・SD研修を行っており、研修内容の動画配信などの工夫により教員全員が1回以上参加している点を評価する。

▼課題となることや今後の展開に期待すること

- ・大学院設置基本構想に掲げた、理念や特長を活かした地域貢献と人材の育成に努められたい。
- ・GPAは学習成果の可視化を可能とすることから、より多くの科

目において、担当教員間でGPAの結果の認識共有を図るなど、授業改善に活用されたい。

※GPA:Grade Point Average の略:各科目の成績から特定の方式によって算出された学生の成績評価値を用いる制度

※FD:Faculty Development の略:大学教員の教育能力を高めるための実践的方法、組織的な取組

※SD:Staff Development の略:教育研究活動の適切かつ効果的な運営を図るため、教職員を対象とした、必要な知識・技能の習得、資質向上の研修、組織的な取組

4	教育に関する事項 (4)学生への支援
A	中期計画の進捗は順調

9個の小項目中、2項目がs(特筆すべき進行状況にある)、7項目がa(順調に進んでいる)と認められ、大項目評価はAとなった。

4の取組項目 (小項目の数)		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	3	6	0	0	0	9
	割合 (%)	33.3	66.7	0	0	0	100
評価委員会の評価	項目数	2	7	0	0	0	9
	割合 (%)	22.2	77.8	0	0	0	100

▽評価をする事項

- ・松川町や玉滝村における大学での学びを実践の中で深める学習プログラムへの学生の参加、理事長裁量経費を活用した KENDAI MARCHE の開催などの学生の主体的な取組みが行われ、学生の起業もみられるなど学生への支援について様々な成果がみられる。
- ・1年次からのきめ細かなキャリア支援策を実施し、その結果として第1期生の就職希望者の就職率100%を達成している。

▼課題となることや今後の展開に期待すること

- ・学生の定期健康診断の受診率向上の取組みは評価するが、受診できなかった学生に受診勧奨するだけではなく、状況把握などのフォローアップを検討されたい。
- ・障がいを持つ学生に対して、管理栄養士養成校として、全国初の対応を行った点は評価できる。こうした合理的配慮の対応や体制があることは大切なアピールポイントであるので、広く周知するとともに、障がいを持つ学生への支援をさらに進められたい。

5	研究に関する事項
B	中期計画の進捗は概ね順調

5個の小項目中、4項目がa(順調に進んでいる)、1項目がc(やや遅れている)と認められ、大項目評価はBとなった。

5の取組項目 (小項目の数)		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	0	4	1	0	0	5
	割合 (%)	0	80.0	20.0	0	0	100
評価委員会の評価	項目数	0	4	0	1	0	5
	割合 (%)	0	80.0	0	20.0	0	100

▽評価をする事項

- ・中期目標に定められた研究等に係る外部資金の獲得については、科学研究費補助金や受託研究等の実績が出ており、大学の取組の成果が認められる。

▼課題となることや今後の展開に期待すること

- ・大学としてどのような研究を期待するかということは重要な課題である。大学の研究テーマの明確化を図るとともにその方向性に沿った研究を教員に促すことにより、中期計画に掲げた教員の科学研究費の新規申請率が向上するよう、大学を上げて更なる取組に努められたい。
- ・長野県のシンクタンク機能として、多様な地域課題の解決に資するような研究の推進や各教員の研究成果の更なる情報発信に取り組まれたい。

6	地域貢献に関する事項
A	中期計画の進捗は順調

5個の小項目中、1項目がs(特筆すべき進行状況にある)、4項目がa(順調に進んでいる)と認められ、大項目評価はAとなった。

6の取組項目(小項目の数)		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	1	4	0	0	0	5
	割合(%)	20.0	80.0	0	0	0	100
評価委員会の評価	項目数	1	4	0	0	0	5
	割合(%)	20.0	80.0	0	0	0	100

▽評価をする事項

- ・ソーシャル・イノベーション創出センターを窓口にして、県内の様々な地域と連携を図り、公開講座などを展開してきた点を高く評価する。

- ・コロナ禍にもかかわらず、地域コーディネーターが地域の情報収集・関係づくりを進めるとともに、地域のニーズに即した支援に取り組まれていることを評価する。

▼課題となることや今後の展開に期待すること

- ・寄付講座が定着するように積極的に企業への働きかけに努められたい。
- ・地域貢献に大学の専門性を十分活かしているかが見えにくいので、今後は大学教員の研究との連携性をさらに強め、地域課題の解決に資するような活動を進められたい。

7	国際交流に関する事項
A	中期計画の進捗は順調

2個の小項目すべてがa(順調に進んでいる)と認められ、大項目評価はAとなった。

7の取組項目(小項目の数)		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	0	2	0	0	0	2
	割合(%)	0	100	0	0	0	100
評価委員会の評価	項目数	0	2	0	0	0	2
	割合(%)	0	100	0	0	0	100

▽評価をする事項

- ・コロナ禍において、大学初の交換留学に学生を派遣するなど最大限の努力をされてきた点を評価する。

▼課題となることや今後の展開に期待すること

- ・引き続き積極的な広報活動を実施し、留学生の受け入れに取り組みたい。

8	業務運営に関する事項
A	中期計画の進捗は順調

6個の小項目全てが a（順調に進んでいる）と認められ、大項目評価はAとなった。

8の取組項目（小項目の数）		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	0	6	0	0	0	6
	割合（%）	0	100	0	0	0	100
評価委員会の評価	項目数	0	6	0	0	0	6
	割合（%）	0	100	0	0	0	100

▼課題となることや今後の展開に期待すること

- ・全職員がSD研修に1回以上参加するという目標を達成したが、引き続き各職員がさらに多くの研修に参加し、一層の資質向上につなげられたい。

9	財務内容に関する事項
A	中期計画の進捗は順調

2個の小項目全てが a（順調に進んでいる）と認められ、大項目評価はAとなった。

9の取組項目（小項目の数）		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	0	2	0	0	0	2
	割合（%）	0	100	0	0	0	100
評価委員会の評価	項目数	0	2	0	0	0	2
	割合（%）	0	100	0	0	0	100

▼課題となることや今後の展開に期待すること

- ・今後も財源の多様化も視野に入れ、自主財源の確保に向けて取り組みたい。

10	自己点検・評価及び情報の提供に関する事項
A	中期計画の進捗は順調

2個の小項目全てが a（順調に進んでいる）と認められ、大項目評価はAとなった。

10の取組項目（小項目の数）		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	0	2	0	0	0	2
	割合（%）	0	100	0	0	0	100
評価委員会の評価	項目数	0	2	0	0	0	2
	割合（%）	0	100	0	0	0	100

▽評価をする事項

- ・法人の自己点検において毎年度中間段階の計画進捗状況を可視化し、その評価結果を大学運営会議に報告するなど、PDCAサイクルが効果的に機能する仕組みを構築している。

11	その他業務運営に関する事項
A	中期計画の進捗は順調

5個の小項目全てが a（順調に進んでいる）と認められ、大項目評価はAとなった。

11の取組項目（小項目の数）		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	0	5	0	0	0	5
	割合（%）	0	100	0	0	0	100
評価委員会の評価	項目数	0	5	0	0	0	5
	割合（%）	0	100	0	0	0	100

▽評価をする事項

- ・国公立大学として、初めて再生可能エネルギー100%調達を達成したことを評価する。

▼課題となることや今後の展開に期待すること

- ・全教職員がハラスメント研修を受講できるように、開催方法や時期などを工夫し実施されたい。
- ・引き続き、個人情報保護や情報セキュリティに関する研修、自己チェック等を定期的実施するなど、最大限のセキュリティ対策に努められたい。
- ・再生可能エネルギーの利用にとどまらず社会課題の解決に向けて、SDGsの取組をさらに進められたい。

(参考) 第一期中期目標期間大項目別評価結果一覧

大項目			年度評価				見込 評価
			H30	R元	R2	R3	
1	1 教 育	(1) 人材育成の方向	A	B	B	B	B
2		(2) 入学者の受入れ		A	A	A	A
3		(3) 教育の質の向上		A	A	A	A
4		(4) 学生への支援		A	A	A	A
5	2	研究	A	B	B	B	B
6	3	地域貢献	S	S	A	A	A
7	4	国際交流	A	A	A	A	A
8	5	業務運営	B	A	A	A	A
9	6	財務	A	A	A	A	A
10	7	自己点検・評価	A	A	A	A	A
11	8	その他業務運営	A	A	A	A	A
項目数合計			8	11	11	11	11

○評価の経緯

令和4年6月30日	「公立大学法人長野県立大学の中期目標の期間の終了時に見込まれる業務実績報告書」の公表・提出（法人）
10月11日	第4回公立大学法人長野県立大学評価委員会（法人ヒアリング） ・業務実績報告書についての評価委員からの質問に対する法人からの説明、質疑応答
11月1日	第5回公立大学法人長野県立大学評価委員会 ・業務実績に関する小項目評価の検討
11月29日	第6回公立大学法人長野県立大学評価委員会 ・大項目・全体評価の検討 ・評価結果報告書の検討
1月13日	評価委員会から知事へ「公立大学法人長野県立大学の中期目標の期間の終了時に見込まれる業務実績に関する評価結果報告書」の提出

参考意見

評価結果報告書【資料編】のコメントには記載していないものの、法人運営全般の改善や教育・研究の質の向上を目的として、法人への期待や要望、今後参考となる事項について「参考意見書」としてまとめた。

○公立大学法人長野県立大学評価委員会委員

(五十音順、敬称略)

職	氏 名	役 職 名
委員長	山沢 清人	信州大学 名誉教授
委 員	生駒 和夫	公認会計士
委 員	伊藤 かおる	(株) コミュニケーションズ・アイ 代表取締役社長
委 員	沼尾 波子	東洋大学 国際学部 教授
委 員	山浦 愛幸	(一社) 長野県経営者協会 名誉会長 (株) 八十二銀行 顧問

